

# THE MARRIAGE

Ferdinando Frega - Nando the Scribe



# GILLETTE：結婚

GILLETTE AUDIO — 書記ナンド — GILLETTENARRATIVE.COM

---

私は型にはまるようにはできていなかった。生まれたときも、61歳になっても。考えはいつも行動へ向かってまっすぐ行進し、置き去りにされた言葉は、こだまとしてしか生き残らなかった — 声の調子、身ぶり、文よりも多くを語る沈黙として。

始まりは、1900年代初めの夫婦たちを眺めたときだった。揺るがない結婚、長い人生、そして裏切りは、人類が発明した最古の哲学で処理されていた。心が見なければ、目は痛まない。あの頃、浮気は家族への投資だった。子どもは副産物、仕事は宿命、そして結婚式だけが本物の出費だった — 祝儀の封筒が宴の代金をまかない、残りは夫婦持ち。テレビがなかったからだ、と人は言う。トークショーもない。気晴らしもない。あるのは食べ物と、睦み合いと、人間であることの原始的な真実だけ。

それで、私はどうしたか。結婚しはじめた。あちこちで。

ポーランド、1985年。結婚前の段階は傑作だった。彼女はすべてを与えてくれ、親戚には可愛がられ、誰もがにこにこしていた。式が済めば...その先50年はひとりでやっていくしかない、みんな知っていたからだ。

そして私はカトリックの寄宿学校で8年育ったものだから、二段階にこだわった。まず霊的な儀式、法的な書類はあとで。ずっとあとで。遅すぎるくらいに。実のところ...永遠に来なかった。

1985年から1992年のあいだ、世間は私が3回近く結婚したと信じていた。儀式は完璧だった。法的な部分は？ 私はいつも「都合がつかなかった」。

それから人生は、いつもやることをやった。わが家から100メートルのところに住む女を送ってよこしたのだ。彼女が仕組みを壊した。これは私の思いつきだと

信じきって、私と結婚した。そう信じさせておいた。彼女に負けることだけが、本物の勝利に思えたからだ。結果、子ども3人、結婚生活33年。

だが話はそこで終わらない。1995年から2015年のあいだに、私は世界中でさらに11の象徴的な結婚を集めた。同じ儀式、同じ魔法、同じ逃亡。人は信じなかった。今も信じていない。

そしてある日、単純なことがわかった。地上のすべての女と結婚することはできない。全員を手元に置くこともできない。だが、瞬間なら手元に置ける。ひとつずつ。女というものは — ひとり残らず — いつだって私たち男より上だったのだから。

そして私はまだここにいて、まだ彼女たちを征服しようとしている。一瞬ずつ。それだけが、私が本心から信じたただひとつの結婚だからだ。

---

ナンド